

2020.9.13 年間第 24 主日

## あやまちゆるしてやれ

マタイ福音書 18 章 21-35

そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。

『不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

説教

もしイエスがたとえ話で赦しを語るのならば罪のたとえに借金問題をもちだすでしょうか。イエスは借金の帳消しを罪の赦しに喩えるのはイエスにして

はちょっとヘンな気がします。

ルカは15章11節以下で罪の赦しのたとえ話として放蕩息子を語りました。このたとえもお金がらみではありますが、まじめな兄が赦しを受け入れずに怒っているところを父がなだめたとイエスはたとえを結んでいます。この結び、兄の登場でヒトはなかなか赦すことができないというイエスの深い人間洞察が伝わってきます。

**「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。マタイ 18:21-22**

ペテロの七回赦しですか？という問いにイエスが七の七十倍赦しだと答え、このあとに借金のとえ話が続いています。

わたしたちが「七の七十倍赦し」がイエスのことばだ、イエスの薦めだと、理解し実行することがほんとうにイエスの望みでしょうか？裏切られても、裏切られても赦し続ける、「七の七十倍」赦し続けることがイエスの薦めなののでしょうか。

わたしたちは表向きには赦すことができるかもしれない。まずは一回、次に二回、ひょっとしたら七の七十倍まで赦すことができるかもしれない。そのうちに心から赦すこともできるかもしれない。そして、天の父はわたしたちが赦した分だけわたしたちを赦してくださる。イエスはわたしたちにこう教えているのでしょうか。

立場を逆にしてみましよう。赦す方ではなく、罪を赦してもらおう方の立場にわたしたちを置いてみましよう。犯した罪を償うことはできるのか。とりかえしのつかない罪をとりかえしすることはできるのか。とりかえしがつかないということは償うことができないということになります。赦される方（加害者）はあやまる以外にはなにもできません。

実際には、被害者の方は赦したとしても七の七十倍赦すことはできない、加害者の方はとりかえしのつかないことを償いきることはできない。罪が赦さ

れるためには被害者、加害者がともにじぶんの立場を全うする、赦す、つぐなう、ことによって和解できます。でも人間はどちらの立場になったとしても赦すこと、償うことを心から行いきることはできません。だとすると、人間にはもう望みはないのでしょうか。

しかし、イエスは十字架に架かることで和解の道を示してくださいました。わたしたちがイエスを信じ、イエスの十字架を仰ぎ見ることによって罪の赦しと和解への希望はすでに開けています。

-----